

令和5年度 京都府立洛水高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>すべての生徒が輝ける学校 一人一人の可能性を最大限に引き出し、進路を決定し、卒業させる。</p> <p>1「自主・自律・挑戦」の校是に基づく学びを通して、自らを律し、学び、考え、行動できる人間を育成する。</p> <p>2 洛水式キャリア教育を中心に、学習活動、学校行事及び部活動等を通して、互いの人権を尊重し、人間性豊かで、社会に貢献する資質・能力や態度を育成する。</p> <p>3 個々の生徒の資質・能力を伸ばす手立てを工夫し、基礎学力を定着させるとともに、希望進路を実現させる。</p> <p>4 学校と地域が目的やビジョンを共有する「地域とともにある学校」づくりを推進する。</p>	<p>1 成果 (1) 洛水式キャリア教育を中心に、地域と連携・協働した学びを推進することにより、生徒に将来展望を持たせ、地元企業への就職に繋げることができた。 (2) ICTや外部人材の活用、フィールドワーク等を取り入れた魅力ある授業づくりを推進できた。 (3) 系統的・計画的に人権教育を推進できた。 (4) 特別な支援が必要な生徒に対し、出身中学校や関係機関等との連携により、生徒が抱える困難に向き合い、生徒の成長を支える働きかけや、支援を粘り強く実践できた。 (5) コロナ禍の中、感染症対策や学校行事の内容・日程等の工夫・変更等により、今年度計画していた学校行事を全て実施し、生徒の成長や学校文化の継承に繋げることができた。 (6) 部活動部員による地域の清掃活動を計画的に実施し、地域社会に貢献することができた。また、一部の部活動において、全国大会出場、関西大会及び京都府大会上位入賞を果たし、学校の活性化に繋がった。 (7) 通学時の巡回指導等を計画的に実施し、自転車乗車マナー等の向上に繋げることができた。</p> <p>2 課題 (1) 生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣や身だしなみ等、社会人として必要な常識やマナー等の向上を図る。 (2) 授業を大切にし、欠席・遅刻を減少させ、積極的に学習に取り組む態度を育成する。 (3) 生徒の現状を踏まえた授業、評価及び支援等の在り方について検討し、基礎学力を定着させるための方策を講じる。</p>	<p>1 生徒の伸びる力を信じ、可能な限り惜しみなく個々の生徒に向き合い、生徒に寄り添い保護者の気持ちも理解しながら学力の向上を図り、進級・卒業に向けて力を尽くす。</p> <p>2 希望進路の実現を図るため、学習活動において基礎・基本を大切に、積極的に学習に取り組む態度を育成する。また、ICTや外部人材等を効果的に活用した分かる授業、魅力ある授業づくりを推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>3 生徒の現状を踏まえた各科目の指導計画、内容、評価及び支援等について研究・実践を進める。</p> <p>4 規律ある学校生活や基本的な生活習慣の確立を図り、欠席・遅刻の減少に向けた粘り強い支援を行う。</p> <p>5 洛水式キャリア教育におけるインターンシップや課題解決学習等を推進し、人間性を高め、社会で生きる力を育成する。</p> <p>6 人権の尊重や共生社会の実現に向けた取組を充実させ、「いじめ」や差別を許さない意識・態度・実践的行動力を育成する。</p> <p>7 危機管理の徹底を図り、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、健康で安全な生活を送ることができる健康安全教育の充実に努める。</p> <p>8 活力ある部活動の実現や魅力ある学校行事の企画・運営等により、学校生活の充実や学校の活性化を図り、豊かな社会性を育成する。</p> <p>9 地域でのボランティア活動を積極的に行うとともに、学校運営協議会をはじめとした地域と連携・協働した取組を通して「地域とともにある学校」づくりを推進する。</p> <p>10 広報活動を充実させ、地域・中学生及びその保護者へ、洛水高校の魅力伝える取組を行う。</p>

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	基礎学力の充実	基礎学力向上をめざし、ICT機器のさらなる有効活用を行う。併せて授業規律の確保、欠席者・遅刻者の減少および成績不振生徒に対する指導を充実させる。	学年部・教科との連携により、授業規律を確保に取り組む。またICT機器の有効活用の機会を増やして生徒が積極的に学習に取り組める環境を醸成し基礎学力の向上を図る。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部・教科との連携により、授業規律の確保に取り組むことができ、授業評価アンケート結果からも各先生が授業規律に取り組んでいることが確認できた。 ・ICTの活用においては、各教員の活用度合いに差があることから、各教科間での取組の共有化が必要と感じられる。次年度の全学年にタブレット端末が整備されることに向けて、ICT機器の特徴である情報の集約と共有化を指導と評価の一体化に活かしていきたい。 ・学び直し講座やセカンドラーニング教室が定着化し一定の成果が得られているので、これより得られた情報を次年度の新入生に活用できるようにしていきたい。 ・次年度は新教育課程の完成年度になるので、特色ある学校づくりに向けて、改善点の検証を行っていきたい。 ・人権学習においては、外部人材の積極的な活用により、3年間を見通した人権計画が実施できた。 ・図書館の貸出冊数については大きな変化はないものの図書館を大切な居場所として利用している生徒が一定数いる。今年度は「万華鏡づくり」のワークショップも実現でき、今後も使いやすさと居心地の良い図書館を目指したい。
			学年部や生徒指導部と連携し、朝の遅刻が減少するように指導を行う。授業の遅刻・欠課過多者については、学年部・教科担当者との連絡を密にし、出席不良による単位不認定とならないよう指導を行う。	3		
			教科における基礎補充の実施や担任への成績資料の提供等を通じて成績不振者への指導を行うとともに「学び直しやセカンドラーニング」についても学年部・教科等と連携して状況を把握し参加を促す指導を行う。	4		
	教育課程	特色ある学校づくりに向けて、新教育課程を適切進めていくとともに、改善点の検証も行う。	新教育課程の実施による新しい科目がスタートするため、教科と連携し、3年間を見通した授業の充実を図る。実施した課程においては分掌・教科等と連携して状況を把握し改善点の検証も行う。	3	3	
			年度当初の授業で「シラバス」を生徒に配布して授業内容や評価の観点等を伝える。iPadが新しく導入されるため、研究授業を通じて「ICT機器を用いた効果的な授業」を推進する。	3		
人権教育	教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にされた教育の推進を図る。	人権教育について工夫・改善に努めるとともに、3年間を見通した人権学習を計画して実施する。	4	4		
図書館運営	図書館教育を通して生徒の教養の充実を図る。	図書館利用指導・読書指導の充実を図る。そのために、教科との連携、生徒の委員会活動・部活動との催事共催等を推進する。	4	4		
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	遅刻指導を欠課時数増加防止指導へと変え、身だしなみ指導、授業規律への指導等を全教職員で継続的に行い、当たり前のことを当たり前に行える生徒の育成を図り、よりよい人格の形成を目指す。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 欠課時数3倍、5倍となった生徒と対話を通じて欠課時数増加防止に取り組んだ。年2回、装身具を中心とした身だしなみ指導週間を実施した。ただ身だしなみ指導は一過性になることがあり、指導効果の持続は課題となった。全国交通安全週間の期間に、警察と生徒会が連携して、交通安全の啓発を行った。また年間通じて、羽束師橋周辺で登校指導を実施し、一定地域からの評価も得ることができた。本校生徒のヘルメット着用率を増加させるためには、推奨だけでなく仕掛けが必要と感じた。コロナ禍が明けた影響か、1年生の部活加入率は例年より高いものとなった。
		自転車乗車マナーの向上	警察、PTA等と連携した交通安全教室及び登校指導等の実施により、交通事故の防止と自転車乗車中のマナーの向上を図り、生徒が加害者にも被害者にもならないことを目指す。また、自転車乗車時のヘルメット着用を推奨する。	2		
	特別活動	自主・自律の伸長	生徒会活動及び部活動の加入率の上昇を図り、学校祭を始めとした特別活動のさらなる活性化を目指す。	3		
進路指導部	進路指導	希望進路100%の実現を目指し、支援の充実を図る	進路ガイダンス・キャンパスツアー等、進路学習の充実を図り、生徒の進路意識向上に努める。	3	3	
			多様な入試や就職試験に対応できるように、進学補習・就職や面接の対策講座等を開講し、希望進路実現のための支援を計画的に行う。	3		
	情報の発信	多様で変化する情報の整理と的確な情報の提供	各学年に進路説明会を実施し、変化する進学・就職の情報を把握し、発信する。また、保護者等・担任・各分掌との連携強化に努める。	3		3

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
保健部	健康安全教育的	健康診断の教育的活用と事後指導の徹底を図る。	生徒の健康状態を把握すると同時に、生徒自身に自らの健康状態を健康相談や毎月の保健室だよりなどで理解させ、基本的な生活習慣の確立を促す。	3	3	健康相談や保健室だよりなどで生徒自身に自らの健康状態を理解させ、基本的な生活習慣の確立や感染症予防の啓発を行った。生徒の特性に合わせた支援方法を学年部の先生方や分掌と話し合う機会が増えた。また、支援学校等、関係機関とも十分に連携が図れた。生徒への効果的な支援方法を今後も継続的に考えていく必要がある。保健委員会では、ポスター作成を実施し、健康に対する意識を高めた。環境委員会では、美化週間での点検活動・ポスター作成・教室での掲示物作成を行った。今後もゴミの分別意識高め、清潔で落ち着いた学習環境を整える必要がある。	
		生徒の心身の健康保持と安全の確保に努める。	保健委員会において保健だより等の作成を行う。また、生徒指導部と連携し自転車の安全運転等を含め、自ら健康・安全管理ができる姿勢を養うとともに自主的な活動を支援する。	3	3		
			教育相談・特別支援教育の充実とスクールカウンセラーとの連携を深める。また、必要に応じて出身中学校との連携や外部の支援機関にも繋ぎ、生徒一人一人と向き合い、生徒の成長を支える働きかけを行う。	3			
			感染症予防のための正しい知識を得させるとともに、自他の命を守る意識を向上させる。	3			
		校内美化の活動を推進し、環境に対する生徒の意識向上を図る。	ゴミの分別を徹底するとともに、日々の清掃活動や環境委員会の活動を充実させ清潔で落ち着いた学習環境を作る。	3	3		
総務広報部	洛水式キャリア教育の推進	洛水式キャリア教育を推進することで、人間性を高め、社会で生きる力を育成する。	1年生に対して、SDGs等についての探究学習を行い、洛水式キャリア教育の充実と発展を図る。	3	3	1年生の探究活動については、各自の興味関心をきっかけにすることにより、充実した探究活動が行うことができた。また、2年生は地元企業等の協力を引き続き得て、職業教育を中心にキャリア教育を実施した。「洛水式キャリア教育」について、次年度以降も生徒の実態や社会の変化に応じて、精査し、充実に努めたい。 広報活動については、学校説明会の来校者が昨年度より増加しており、一定の成果があった。しかし、ホームページなどの情報発信については学校全体としては不十分な点もあり、来年度以降、家庭や地域、中学生への情報発信を積極的に行っていきたい。 ICTの推進について、日常的に授業での活用が進んできているが、研修等のサポートは不十分であった。苦手意識をもっている教員もおり、授業での効果的な利活用について推進していきたい。また、学校連絡メール、SlackやTeamsなどの連絡ツールについて、十分に機能できておらず、来年度導入予定のさくら連絡網により学校と生徒・家庭の連絡機能を強化し、環境整備に努めたい。 PTAとの連携において、広報誌を3回発行した。また学校祭、体育祭、朝の交通安全指導に協力することができた。	
	広報活動の推進	学校の様々な取り組みや情報を発信し、地域社会に信頼される開かれた学校づくりに努める。	ホームページやメールを活用し、特色のある授業、学校行事、部活動、生徒会やHR活動など本校の魅力を地域社会に発信する。	2			
			学校公開、説明会、部活動体験、個別相談会や中学校訪問、出前授業等を通して本校の魅力を発信し、中学生、保護者等に選ばれる学校を目指す。	4			
	ICTの推進	ICT機材の整備、効果的なICTの積極的な活用の研究	一人一台端末の整備、生徒と教職員が安心して使えるICT環境の充実を図る。 Microsoft Teamsやロイロノート、Slackを活用し、教育の質の向上や教員間の連携・連絡の強化を図る。	2			2
	PTAとの連携	組織の活性化を図り、本校と家庭との連携を図る。	文化教養講座、社会見学、交通安全指導、文化祭での取組等の行事等を通して、PTA活動の発展に寄与する。また、メール連絡の発信回数を増やし、迅速な情報提供に努める。	3			3
第一学年部	学習・進路指導	授業を大事にする。学び直しに取り組み、課題や提出物を確実に出すことで確かな学力を身につける。	教科担当者と連携し、学び直しを主とした学力向上に積極的に取り組む。 課題担当係を中心に、提出物を確実に出す習慣を身につけることで、基礎学力の向上を図り、進路実現に向けた学力の素地を培う。	4	4	各教科と連携し、月水金に英数国の学び直しをほぼ毎週実施した。併せて、進学ガイダンスを定期的実施し、学びに向かう力を中心とした学力を向上させた。また、遅刻証明書の活用を柱として、あいさつ運動や特別活動の自主的な運営、個別面談を通して、生徒との対話を積極的に行い、基本的な生活習慣の確立につながった。	
	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を確立し、進級・卒業に向けての基礎を確立する。	「遅刻証明書」を活用し、欠席や遅刻の減少に努める。併せて、1往復半のコミュニケーションを実践し、生徒理解に努めることで基本的な生活習慣の確立につなげる。	4	4		

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第二学年部	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を確立し、規律ある充実した学校生活を送る。	欠席過多防止に向けて、遅刻や欠席の連絡を徹底し、時間を守る指導を行う。生徒保護者等とコミュニケーションをとる。また、日常のあらゆる場面で当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成に努める。	3	3	生徒の欠席や遅刻防止に向けて家庭連絡や指導を丁寧に行うことができた。しかし、毎日同じ生徒が遅刻するなど、遅刻が習慣化してしまっている生徒の指導が難しい。身だしなみ指導も同様に指導を受ける生徒が固定化されている。このような生徒に関しては担任、生徒指導部だけでなく学校教員全員で対話していく必要があると感じる。四国研修旅行については、有意義なものとして行うことができた。また総合的な探究の時間におけるインターンシップは生徒たちは主体的に活動することができた。
			頭髪・身だしなみを整え、社会的常識を身につけ常に洛水高校生としての意識を保てるように指導を継続して行う。	3		
進路・学習指導	生徒の力を最大限伸ばし、進路希望実現に向けての真の学力を身に付け、生涯に亘るキャリア教育を推進する。	1年次のキャリア教育をインターンシップの実践に生かし、主体的に取り組むことのできる生徒を育成する。	3	3		
		四国研修旅行に取り組み、SDGsを学び、人間性を高めるとともに社会で生きる力を育成する。また自らの将来を展望する態度を育成する。	3			
第三学年部	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立を促し、自立した社会人となるための自覚を持たせる。	挨拶の励行、遅刻・欠席の防止、時間を守らせる指導を継続的・段階的に行う。とりわけ社会における時間厳守の重要性を理解し、習慣化させる。	3	3	規律ある生活を送るため、日々の指導の中で時間を守ることの大切さを訴え、定着することができた。ただ、一部の生徒ではあるが、欠席や遅刻過多の改善に向けて事細かな家庭連絡及び指導を行ったが、十分な防止効果は得られなかった。中学時よりコロナ禍で欠席慣れしている生徒もおり、学校を休むことへのハードルが低くなっている。3年間の内、コロナ禍の影響を大きく受けた年もあったが、限られた自主活動の機会を活かし、仲間と協力して積極的に取り組み、自主性の大きな成長を図ることができた。進路については、洛水式キャリア教育の成果の一つとしてきめ細やかな指導の下、殆どの生徒が自ら納得できる就職先・進学先を選ぶことができた。なお、進学については、年々総合型選抜や学校推薦型選抜での合格者が増えている。また、公務員試験においては現役での合格者も出た。
			日常の学校生活や就職・面接指導などの進路指導を通して、社会人となるにふさわしい身だしなみや態度を身に付けさせる。	4		
進路・学習指導	進路の実現に向けて計画的な学習に取り組ませ、自らの価値を高め学力の向上を図る。それぞれの適性に合った進路を選択し、主体的に進路実現に取り組む態度を育成する。	進路目標の実現に向けて、進路指導部と連携し分野別説明会や個別面談等を実施する。	4	3		
		就職セミナー・面接指導・志望理由書や小論文指導・総合型選抜対策など、進路指導部と連携し生徒・保護者等のニーズに応じた指導を行う。また、進学補習や学力補充等の充実を図るとともに模擬試験を積極的に受験させるなど、自分に合った進路先を見つける指導の充実を図る。	3			
事務部	施設・設備管理	学習環境の整備 設備・備品等の改善	安心・安全な学校づくりのため、施設担当者・技術職員を中心に施設設備の点検を実施する。また、関係部署と連携し、最適な学習環境の整備を図り、特にICT化について推進する。	4	3	学校施設の危険箇所等については、都度、速やかに対応できた。また、令和5年度は南棟の屋上防水工事や外壁改修工事、教室の空調機改修工事などの本庁執行工事もあり、懸案事項の改善を行うことができた。しかしながら校舎の老朽箇所は多数あるため、今後も引き続き長期的な視野で教育環境の整備に務める。修学支援関係においては、様々な制度の周知を図ることが一定できたが、より分かりやすい周知方法を検討していきたい。予算に関しては法令に則った適切な執行はできたが、昨今の社会情勢の中で非常に厳しい状況ではあるのでより効果的な執行について取り組んでいきたい。
			長期的修繕計画を策定し、計画的な改修に努める。	3		
	修学支援	安心した教育機会の保障のための援護制度の周知	各種援護制度について周知を図り、生徒・保護者の経済的不安を軽減する。	3	3	
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	分掌・教科と連携し、限られた予算の中での効果的な予算執行に努める。	3	3	
職員相互チェック・確認体制の定着化を計る。			4			

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語科	教科指導	授業を大切にさせる取組	毎時間の授業に必要な教材を確実に準備させるとともに、授業外の予習・復習に取り組みさせることができるような課題の設定に取り組む。	3	3	3 生徒が教材を持ってきているかのチェックや、定期的に漢字小テストや語句の意味小テストなどを国語科全体で行うことができたので、基本的な授業規律の確保や語彙力の定着を行うことができた。 今年度当初は年間2回の日本漢字能力検定の校内受験を実施する予定であったが、校内受験実施の最低基準である受験者10人が集まらず、2回目は実施することができなかったため、受験の推奨や意欲喚起を次年度の課題としたい。
		語彙力・漢字力を身に付けさせる取組	全学年を通じて語句の意味・漢字の小テストを継続的に実施し、基礎的な漢字を確実に身に付けさせる。日本漢字能力検定の受験を推奨し、受験意欲を喚起するための取り組みを行う。	2	2	
		主体的に学習に取り組ませる取組	国語を学ぶ意義を理解させ、授業の内外を問わず主体的に学習に取り組む態度を養う。	3	3	
地歴公民科	教科指導	社会全般の知識の定着	小・中学校からの学び直しを意識し、基礎的な知識や用語を身につけさせる。そのために、小テストや復習を授業内で実施し、ICT機器や写真資料などを活用して、視覚的にイメージしやすいような授業づくりを心がける。教科書の内容をしっかりと理解させることを心がけ教える内容を精選する。	3	3	3 各担当により授業内容を精選し、生徒のレベルに合わせた授業を展開することができた。ICTは、パワーポイントでの授業や、ロイノートでの課題の提出、視覚教材の導入等様々な場面で利用することができた。授業内で課題を設定し、その課題を積極的に評価に反映させることで、授業への出席を促すことができた。
		社会参画への意識の向上	授業で得た知識を使って、現代社会の諸問題について読み解く視点を取得させる。そのために授業内で問いを設定し、自分の意見を考えさせる。社会参画の一步となる主権者教育を充実させる。	3	3	
		主体的に学習に取り組む力を養う	学習姿勢の定着を第一とし、授業時の態度や学習ルールが守れるように声かけを続けていく。また、授業への出席を第一とし、評価に反映させる。	3	3	
数学科	教科指導	授業規律の確保と基礎学力の向上	授業時間ごとに目標設定を行い、集中して授業に取り組める環境を作る。 学び直しの学習を取り入れ、年間を通して基礎学力の定着を目指す。積極的に家庭学習を行えるよう、計画的に課題やノートを提出させる。	3	3	3 昨年度以上にICT機材を用いた授業や課題などの取組状況を評価に大きく取り入れることにより、授業規律と意欲の向上に繋げることができた。1年生においては、スタートワークだけでなく、学び直しとして放課後学習も教科全体の取り組みとして行った。習熟度別授業を行っても、上位層の入試に対応できる学力の養成に課題が残る。
		進路希望実現のための学力を育成	習熟度別授業では、講座に応じて学習する内容・進度などを工夫することにより、入試にも対応できる学力の向上を目指す。	3	3	
理科	教科指導	新学習指導要領に対応した新たな学びの実現	生徒全員ができる・分かる授業を実現するために、授業支援アプリを積極的に活用し生徒主体の学習を目指す。また、テストだけでなく、パフォーマンス課題や振り返りなどを活用し、生徒の学びを様々な観点から評価することで新たな学びを実現する。	3	3	3 今年度は、より一層実験や実習を多く授業に取り入れることができた。また、ICT機器の活用においても、ICT機器のメリット・デメリットを教科内で共有し、生徒主体の学習を行うことができた。また、パフォーマンス課題等も積極的に取り入れ生徒の学びを多様な観点から評価することができた。
		実験・観察の充実	教科担当者が実習助手と密に連携し、実験・観察を充実させ、生徒の興味・関心を引き出す。	3	3	
保健体育科	教科指導	運動の楽しさを知り、積極的に参加する態度を養い、運動能力とともに豊かな人間性の育成を目指す。	協力し合い授業を作るという意識を持たせることで、規律・協調性・責任感など社会で生きる力と主体的に取り組む力を育成する。指導したことに対しての達成度合いをフィードバックすることで、意欲や主体的に取り組む態度の向上を目指す。	3	3	3 授業に取り組むにあたり、メリハリのある環境を設定することに注力した。互いを大切に尊重しながら活動することを生徒自身も意識し、協同する授業展開が多くみられた。課題としては達成度合いのフィードバックが数値化されていない技能に関して不十分な面もあったので次年度の課題としたい。
		知識・理解を深めるとともに、課題学習を実践する。	健康に対する知識を身につけ、調査・研究により健康に対する理解を深め、自らの意見を発表する能力を身に付けさせる。	3	3	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
芸術科	教科指導	多角的な視点から表現・鑑賞活動を行い、多様な価値観を育成する。	1・2年生において、半分以上の授業で生徒自身がタブレットを操作する活動(創作・鑑賞・意見交流等)を行う。3年生においてもそれに準じた取組を行う。	2	2	3	昨年度に比べ、タブレットを使用した活動が多くなったが「半分以上の授業」までにはならなかった。忘れ物チェックと服装点検については、ほぼ毎時間で行うことができた。
		授業マナーの向上と学習意欲を高める指導を目指す。	毎時間、忘れ物チェック及び服装点検を行い、落ち着いたある授業環境を整える。	3	3		
英語科	教科指導	学習習慣の確立と基礎学力の定着	基本的な英語コミュニケーション能力に繋がる基礎的な内容の定着を図る。そのために、中学既習事項の学び直しを軸に、授業に前向きに取り組み、主体的に学習する姿勢を養う。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・中学既習事項の学び直しの教材を年間を通して授業で活用し基礎学力の定着を図った。 ・低学力の生徒に対し学び直しの補充を定期的に行い、学習する姿勢を養い基礎学力の向上を図った。 ・AETとのティームティーチングを行い、英語学習への動機付けや英語使用の習熟を積極的に行った。 ・進学希望に対応できる学力の定着を目指し進学補習を行い、進路決定後も継続して実施した。
		進路目標の実現にむけた学力の伸長と向上	進路希望の実現、および卒業後の進路において必要な基礎学力・コミュニケーション能力の伸長を図る。またその定着を目指して授業および補習などを通じて学習する姿勢を育む。	3	3		
家庭科	教科指導	授業を大切に作る姿勢を育成する。	授業の理解度を確保するため、ノートやプリントの提出を徹底する。知識の定着を図るため確認の小テストを行う。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間忘れ物チェックや声掛けを行い、授業に向かう姿勢を整えさせることができた。また、ノートや課題の提出と小テストを定期的実施することで、知識の定着を図るように努めた。 ・実生活の問題について、生徒間の意見交流を行うことで、学習内容を自分の生活と結びつけて考えさせることができた。一方、他者と上手く関わりを持つことができない生徒もおり、課題は残った。社会人講師や実習等の活動を積極的に取り入れ、生徒の興味・関心を引き出すことができたが、実習の目的を考えさせるために、事前学習をもう少し深めながら、効果的な活用を続けていきたい。
		生活に必要な知識と技術を習得させ、主体的に生活を創造する能力を身につけさせる。	時代の流れに即した内容をできるだけ取り入れ、実生活に生かせるようにする。自己実現や自立に向けた力をつけるために、実験・実習などを取り入れて総合的に学習させる。伝統文化の体験を通して、豊かな感性を育み、心豊かに生きる力を身につけさせる。	3	3		
情報・商業科	教科指導	毎回の授業を大切に、時間を有効に使う態度を育成する。ICT教育教材を利用できる能力を身につける。	毎時間、課題・授業プリントの提出を徹底する。遅刻・欠課を減らす指導、「欠課届」提出の徹底を行う。	3	3	3	将来の進路実現のため、各検定試験にも対応した実習を充実させることができ、将来の資格試験取得について意欲を高めることができた。 情報モラルの学習については、講義形式の学習に加え、インターネットを利用した調べ学習やプレゼンテーションソフトを利用したグループ発表を実施することができた。 タブレットとPCを使用したICT学習の展開を行うことができた。
			授業前自習を実施し、タブレットを使用したICT授業の可能性を探る。またスマートフォンの利用を模索する。	3			
		ビジネス社会・ICT社会に参画するためのICT機器活用能力の育成を推進する。	情報の理論的な理解、情報モラル育成を行う。	3			
			情報モラルを育成し、コンピュータ等を効果的に活用する能力の育成を行う。	3			
		個人、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高め、プレゼンテーション能力の向上を図る。	3				

学校関係者評価委員会による評価

- 生徒一人ひとりに寄り添う指導により、学習面や生活面で成果が現れている。生徒の個性と大切に、寄り添い支援する姿勢は、現在の学校現場に求められている。
- 洛水らしい取り組みが定着してきている。特にインターンシップなどの将来を見据えた取り組みが就職に繋がっている。
- 学校評価アンケートの肯定率が大幅に上昇しており、丁寧な指導が生徒や保護者に受け入れられている。
- 自転車マナーの向上が見られ、取り組みの成果が出ている。

次年度に向けた改善の方向性

- 生徒一人ひとりを大切に、日頃からきめ細やかな指導を継続して行う。支援が必要な生徒に対しては、関係機関と連携しながらチーム学校の実践を充実させる。
- 「洛水式キャリア教育」について、生徒の実態や社会の状況等を見ながら更に充実させる。
- 日々の授業や学校生活を大切に、自ら学習に取り組み、協働しながら学ぶ力の育成を図る。
- 部活動の活性化や魅力ある学校行事の企画・運営を図り、学校生活を充実させ豊かな社会性の育成を図る。
- 生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣や身だしなみ指導等、社会人として必要な常識やマナーの向上を図る。
- 本校の教育活動、特色について、積極的に発信し、広報の充実を図る。また、地域と連携した取り組みの充実を図る。